

=====

RIKKYO UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2020. 11. 17

=====

こんにちは。ボランティアセンターです。今日新座キャンパスのクリスマスのイルミネーションはライトアップの準備をしていました。2020年も、もうあと1か月半です。

秋学期になって、少しずつボランティアセンターでも、学生との対面での面談が増えてきました。久しぶりに会う学生もいれば、「初めまして」の学生もいます。学生たちの賑やかな笑い声を聞くと私たちも励みになります。Zoom はとても便利なツールですが、やはり直接会うことにはかなわないなど、ガラス張りのカウンター越しにしみじみ思います。

ボランティアセンターは、感染対策をしっかりと講じた上で、皆さんが来るのをいつでもお待ちしております。事前予約はメールにて受付中です。ぜひお気軽にどうぞ。



CONTENTS

- (1) ボランティアセンターからのお知らせ
- (2) 学生コラム
- (3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

=====

(1) ボランティアセンターからのお知らせ

=====

【Online Volu-Café に参加してみませんか？】

「秋学期に入り、そろそろ何かしてみたい！」

「動き出すきっかけって、どう探したらいいのかな…？」

「大学以外の場所でも、人や社会と繋がりを作るには？」

立教大学には、大学の枠を飛び越えて、自分探しをしながら積極的に社会と関わり活動をしている学生がたくさんいます。

今回の Online Volu-Café では、コミュニティ福祉学部3年生の男子学生1名に話をしてもらいます。1年生の頃から積極的に活動し、学習支援のボランティアやRSLの授業を通して社会との関わりを自分の「糧」にしている学生です。

今回は、「アンテナを立ててみること」「自分の行動の『きっかけ』探し」「社会課題について考えること」などをテーマに話してもらいます。

事前申込制、定員は先着 10 名で、zoom を利用して少人数の座談会形式で行います。
ゲストの学生へ自由に質問することも可能です。

申し込みは 11/18(水) 17:00 までです

日時：2020 年 11 月 20 日(金) 12:35～13:20

ゲスト：学生 1 名（コミュニティ福祉学部 3 年生）

☆Zoom にて開催 配信 URL は 11/19（木）にメールでお知らせします。

子どもたちへの学習支援活動、高齢者施設でのボランティアをはじめ、様々な社会課題に関する活動を経験している学生です。

参加希望の方は、詳細をご確認の上、**立教時間**よりお申し込みください。



【バリアフリー映画上映会のお知らせ】

「立教大学バリアフリー映画上映会」とは、しょうがいの有無に関わらず、共に楽しむことができるよう環境を整えた映画会です。この映画会では、通常視覚しょうがい者の方だけがヘッドフォンで聴く音声ガイドを来場者全員にスピーカーで聴いていただき、上映作品に関する会場掲示文章の読み上げや、触って体感できる展示物の制作、また休憩時には参加者全員によるストレッチタイムなどを、バリアフリー映画会の可能性を模索しながら実施しております。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年通りの新座キャンパスでの上映会ではなく、オンライン会議システム（zoom）を利用した形態で実施いたします。

また、上映会を 2 部構成にし、前半では本学バリアフリー映画上映会の歴史・特色の紹介、後半はドキュメンタリー映画『バベルの学校』の上映を行います。

学生実行委員会のメンバーとボランティアセンターが半年かけて準備してきた映画会です。
申し込みは 11/5(木) ～立教時間にて受け付けます。

先着 30 名ですので、ぜひお申し込みください。

【日 時】 2020年12月11日（金）授業休講日

13:00～15:00

(12:50 開場 13:00 第1部開始、13:30 第2部開始)

【方 法】 オンライン (zoom ウェビナー) 上映

映画『バベルの学校』

(監督ジュリー・ベルトウチャリ、編集ジョジアンヌ・ザルドーヤ制作 Les Film du Poisson, Sampek Productions (フランス、2015年89分))

【あらすじ】

国籍も宗教もフランスに来た理由も違う子どもたちの中には、時に大声で口論し、泣き、自暴自棄になる子も。ブリジット・セルウォニ先生は、そんな子どもたちを驚くほどの辛抱強さで見守り、なだめ、そして導いていく。国境も宗教も家庭のバックグラウンドも違う十代の生徒たちが、異国の地フランスで、言葉もままならないなか葛藤を抱えて新生活をはじめ、時にぶつかりながらも様々な壁を乗り越えて友情を育んでいく。そんな彼らの姿は私たちに未来への希望を見せてくれる。

【バリアフリー対応】

① 音声ガイド ② 手話通訳 (第1部の一部)

③ 文字通訳 (第1部の一部) ※本編は日本語字幕あり

※聴覚しょうがいをお持ちの方で、『UD トーク』を必要とされる場合は、恐れ入りますが各自でご準備をお願いします。(映画本編は字幕付です。)

*注意事項

- ・立教アカウントでログインすること。
- ・URLの第三者への配布禁止
- ・リアルタイム配信のため時間厳守(5～10分前には入室してください)
- ・画面の撮影・録画禁止
- ・個人のビデオ・マイクオフ
- ・チャットは必要時以外利用不可
- ・質問、接続など問題発生時の問い合わせ先：新座ボランティアセンター

volunteer@rikkyo.ac.jp

048-471-6682 (電話での問い合わせは当日のみ可能)

【コーディネーターに相談してみませんか?】

現在池袋・新座両キャンパスのボランティアセンターでは、コーディネーターに対面での面談を再開しました。(メールによる事前予約制)

池袋、新座キャンパスともに、以下のスケジュールで窓口対応いたします。

月～金 10:30～15:30

また、引き続き zoom による相談も受け付けています。

「ボランティアについて聞いてみたい」「現在取り組んでいる活動についてちょっと相談したい」「ボランティアサークルのことで悩んでいる」という皆さん、ぜひお問い合わせください。

メールは volunteer@rikkyo.ac.jp まで

【立教大学校友会 高畠町のお米プレゼント企画スタート】

立教大学校友会とは、1907年に設立された立教大学の卒業生による同窓会組織です。会員相互の親睦を図り、立教大学の発展に寄与することを目的として活動しています。立教大学卒業生および大学院修了者は卒業・修了とともに会員となり、現在約21万人の会員がいます。校友会奨学金や校友会成績優秀者留学支援奨学金などで毎年学生の皆さんを支援しています。

山形県高畠町は山形県の南東部に位置する自然豊かな美しい町です。

その高畠町の和田地区に1986年に発足したのが「上和田有機米生産組合」です。この上和田有機米生産組合と立教は30年以上に渡る長いつながりがあります。

ボランティアセンターでは毎年9月に農業体験で一週間学生が援農でお世話になっています。

池袋キャンパスの第一食堂で提供されているお米も上和田有機米生産組合の皆さんがつくったお米なのです。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、キャンパスに来られる機会が少なくなりました。さらに第一食堂が再び休業することも決定し、大学で気軽に・手軽に、安心・安全にこだわった高畠町産のお米を食べていただくことが難しくなってしまいました。

このような状況下でも後輩である学生の皆さんに少しでも美味しく、身体にいい食事をとってもらいたいという思いから、高畠町のお米をプレゼントすることにいたしました。ぜひお気軽にお申込みください。



プレゼント内容：山形県高畠町産のお米 5キロ

申込み期間：11月16日（月）10時～11月27日（金）16時

受付人数：100名（予定）

※配達の関係で、現在日本にいる方に限ります。

※お申込みくださった方の中から、100名の方にお米をプレゼントいたします。（送料を含め、全て無料です）

当選された方には、申込み期間終了後に校友会からメールをお送りいたします。

※お申込みの状況によっては、100名より多くの方に高島町のお米をプレゼントをさせていただく場合もあります。

お渡し方法：入力いただいた住所に上和田有機米生産組合から直接お送りいたします。

※入力いただいた住所を上和田有機米生産組合にお伝えしますことご了承ください。

※配送日の指定はできません。不在の場合は、ご自身で対応をしてください。

詳細はこちら→

<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/takahata>

または、立教大学校友会 Instagram からどうぞ♪

（２）学生コラム

今回は学生コラム初の1年生からの寄稿です。

Online Volu-Café に何度も参加してくれている法学部政治学科1年生の藤橋唯さん。何事に対しても非常に意欲的で、ゲストの上級生にも積極的に色々質問をしていました。オンラインの状況の中でも、こうして新しい学生と繋がれることは、私たちにとっても「喜び」です。次はみなさんも・・・

法学部政治学科1年生

藤橋唯

「誰もが安心できる居場所を持てる社会」これを実現するために、あなたはどのようなアプローチが可能だと考えますか？十人十色の考えがあると思いますが、私が鍵だと考えるのは、地域コミュニティの再生です。

今日では、地域社会に於いて人と人との繋がりが希薄化しているとしばしば耳にしますが、私自身今まで、このことを身をもって実感してきました。幼い頃から転居を繰り返す度に、近所付き合いの少なさからなかなか地域の人と繋がることができず、閉塞感を募らせてきたのです。そして、繋がりが薄いことで、高齢者の孤立化や児童虐待など様々な社会問題が私たちの見えないところで深刻化していることに気付いた時、彼らが想像しきれない程強い孤立感に苛まれていることを思うと、居ても立っても居られませんでした。

こうした経験から、地域コミュニティの再生によって、誰もが安心できる居場所を持てる社会をつくりたいと強く思うようになりました。そのためには、自ら現場に足を運んで地域住民同士の繋がりについて考えを深めることが必要と考え、大学時代に地域領域を中心とした多領域のボランティアに携わることに決めました。

中でも、地域コミュニティの再生と密接に関わる子ども食堂や復興支援、地域イベントの運営等に継続的に参加することが夢への第一歩だと、期待に胸を膨らませていました。

しかしながら、大学生活が始まって半年経った頃、果たして大学4年間で、自分の思い描くようなボランティア活動ができるのかと不安に駆られるようになりました。というのも、コロナ禍でボランティア活動自体が困難な状況下で、週6の部活動やGLP、資格勉強等、様々な活動に力を入れたことで、精力的にボランティアに打ち込めるだけの時間的余裕を失っていたためです。

そんな時、背中を押して下さったのが、オンラインボラカフェで出会った、ボランティアセンターの職員の方々と、ボランティア経験豊富な先輩方でした。ボランティアをやりたいと強く希望しながらも、他の活動との両立に不安があることを相談すると、彼女達は、「ボランティアに興味を持ってきてくれて本当に嬉しい。あなたみたいな人が来てくれたら、ボランティア先の方々はきっと喜ぶよ」

「忙しい中でもボランティアをやりようとしているのは凄いね。不定期になってしまっても大丈夫。来てくれるだけで嬉しいと言ってくれる人達が沢山いるから」と温かい言葉を掛けて下さいました。加えて、ボランティア先の中には曜日や頻度をフレキシブルに調節でき、ライフスタイルに合わせて継続参加できるものも多いこと、単発や短期のボランティアの募集も豊富にあることを教えて頂いたことで、不安が解消され、実現に向けて前向きに検討できるようになりました。

同時に、私のような初対面の相手にも心から寄り添える彼女達の優しさに、強い憧れを抱くと共に、それは彼女達が、これまで人を思い精力的にボランティアに関わって来られたからこそ持てる優しさではないかと感じ、一層ボランティアへの意欲が高まりました。

こうしてボラカフェで背中を押して頂いたことがきっかけで、先日、近所の子ども食堂と個人的に連絡を取り、いよいよ本格的に実現に向けて一歩踏み出すことができました。今後は、コロナウイルスの感染状況を見ながらではありますが、可能な範囲でお手伝いを始めて行くつもりです。私は、この活動を通じて、住民同士が自発的に支え合い、誰もがここにいて良いんだと思える、そんなコミュニティづくりに貢献したいと思っています。

この先、ボランティアを進める中で新たな悩みが生まれることもあるかもしれませんが、しかし、ボランティアセンターに行けば親身に相談に乗ってくれる人がいるという安心感が、その不安を払拭してくれます。ボランティアセンターは、私にとってはまさに安心できる居場所になっています。

皆さんも、ぜひ一度、ボランティアセンターに足を運んでみませんか？私のようにボランティアに興味がある方は勿論、何か新しいことを始めたい方、誰かの役に立ちたい方、仲間が欲しい方等どんな方にとっても、きっと素敵な出会いの場になると思います。ぜひ、私と一緒に新たな一歩を踏み出しましょう。



(3) 陸前高田サテライト・東日本大震災復興支援関連情報

みなさん、こんにちは！陸前高田サテライト事務局です。

立教大学では2011年の東日本大震災以降、岩手県陸前高田市を中心に東北各地で復興支援活動や交流活動を継続しています。現在は、陸前高田市ご協力のもと、岩手大学の方々と共に同市の地域課題解決に貢献できるようなプログラムにも取り組んでいます。

陸前高田市と立教大学の歩みを少しずつ振り返りながら、学生の皆さんが陸前高田を訪れることが出来るプログラムやスタッフによる耳ヨリ情報を掲載していきます！

★スタッフが出会った、たかたのこことば～米沢祐一さん（米沢商会）

陸前高田市の中心市街地でパッケージを販売していた米沢商会。経営者の米沢祐一さんにとって東日本大震災当日は娘さんのお宮参りの日でした。しかし、その数時間後、3階建て店舗ビル屋上のさらに上まで登り、膝まで津波につかりながら生き延びるという壮絶な経験をされます。米沢さんはこの建物を自費で保存し、その日の出来事を語り伝えています。多くの立教生が米沢さんのビルでお話を伺ってきました。今回は米沢さんの言葉を1つだけご紹介します。

『「解体費用は二人で頑張って働けばなんとかなる。でも一度壊してしまったら元に戻せないんだよ」という妻の一言が決め手になった。震災前の陸前高田を知らない娘たちの世代にこの町のことを教えてあげたいというのが最初にあった思いですね。今はたくさんの学生さん達とも出会えて、残してよかったなと思います。』（「立教バレーボール教室@陸前高田」参加学生に対するご講話から）



米沢商会ビルで震災当日の出来事を伝える米沢さん

*お問合せ 立教大学陸前高田サテライト事務局 rrs@rikkyo.ac.jp

*陸前高田サテライトの取り組みを発信中

公式 Instagram (@rikkyo_rrs) https://www.instagram.com/rikkyo_rrs/

立教大学ボランティアセンター

◎池袋キャンパス

場所：5号館1階

開室時間：月～金 9：00～17：00

土曜日 9：00～12：30

◎新座キャンパス

場所：7号館2階

開室時間：月～金 9：00～17：00

※新型コロナウイルス感染拡大のため6月1日以降は短縮開室しております。

月～金 10:30～15:30

土曜日 10:30～12:30 (新座キャンパスは原則として閉室です)

職員・コーディネーターともに交替で出勤・在宅勤務のため、休日授業日は、池袋・新座ともに最小人員で開室、授業休講日は、池袋・新座ともに閉室とさせていただきます。

◎ホームページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

◎メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

◎TwitterID @rikkyo_volucen

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

◎Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください。

<https://forms.gle/xFtZVvd94JelnJwm7>